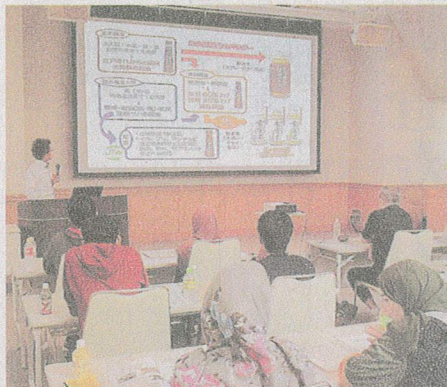


東南アジア イスラム教徒配慮

ハラール対応商機に

福井会議所でセミナー



認証商品の開発などハラール対応について学んだセミナー＝7日、福井市の福井商工会議所ビル

福井商工会議所は7日、イスラム教徒の生活で宗教的配慮が必要な「ハラール」への対応を学ぶビジネスセミナーを、福井市の同会議所で開いた。イスラム教徒の人口が多

く経済発展が著しい東南アジアを念頭に、専門家がハラールの基本や認証制度を解説、県内企業の担当者が対応事例を紹介した。

ハラール・ジャパン協会（東京）の佐久間朋宏代表理事氏が「ハラールビジネスの可能性」と題し講演。特に豚肉と飲酒をタブーとするハラールについて商品事例を挙げながら説明した。

「ビジネスとしては、多様な外国人に対応することが必要」と指摘し、ハラールだけでなくベジタリアンなど広く対応した食品やメニューの開発を勧めた。「油揚げはハラールもベジタリアンもOK。福井には精進料理があり、味を濃くするなど工夫するとい

い」と話した。しょうゆ醸造の室次（福井市）の担当者は、天然素材にこだわったしょうゆがハラールの認証を取得した事例を紹介した。

マレーシア人を雇用する工作機械製造のイワシタ（同）の担当者は「食事や礼拝など、互いに話し合い理解を深め対応している」と話した。

セミナーには行政や食品製造、宿泊、繊維業の関係者や、留学生も参加。認証の必要性などについて熱心に質問していた。（藤野大輔）